

市民団体のSDGs理解への 取り組み

特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば

代表理事 桑波田 和子

話題

- 自己紹介
- 特定非営利活動法人環境パートナーシップちばの紹介
- 活動の基本方針
- SDGS理解への取り組み
- SDGS達成へ向けて

自己紹介

- ・ 特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば 代表理事
- ・ エコメッセちば実行委員会 実行委員長
- ・ 千葉県環境審議会委員
- ・ 千葉市環境審議会委員
- ・ 八千代市ほたるの里づくり実行委員会 副会長
- ・ いちはら市民フェスタ実行委員会委員 他

特定非営利活動法人 環境パートナーシップちばの紹介

- ・ 1997年6月29日 任意団体「環境パートナーシップちば」設立

設立趣旨：市民主導型の環境ネットワークを気付き、市民・行政・企業とのパートナーシップを目指します。

- ・ 2018年年1月25日 特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば設立

設立趣旨：環境活動の推進と充実を図るため、市民・団体・企業・行政・学校とのパートナーシップのもと、「持続可能な開発に向けた目標(SDGS)」や「持続可能な開発のための教育(ESD)の視点を意識して、さらなる持続可能な社会の実現を目指します。



特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば活動方針

環境保全活動・環境学習をパートナーシップで推進する活動をしています

1. 持続可能な社会を目指すための多様な主体とのネットワークの構築
2. 持続可能な社会を推進するための人材育成
3. 環境活動の推進と充実を図るための情報の発信



エコメッセちば実行委員会
事務局活動



印旛沼をきれいにする活動



環境学習支援活動ほか

SDGs (Sustainable Development Goals)

2016年から2030年までの国際目標
持続可能な世界を実現するための17のゴール
169のターゲットから構成
地球上の誰一人として取り残さないことを宣言



国連広報センター

ESD (Education for Sustainable Development)

「一人ひとりが世界の人々や将来世代」持続可能な社会の実現に、また、環境との関係性の中で生きていることを認識し、持続可能な社会の実現に向けて行動を変革するための教育のこと」

具体的には、単なる知識の習得や活動の実践にとどまらず、日々の取組の中に、持続可能な社会の構築に向けた概念を取り入れ、問題解決に必要な能力・態度を身に付けるための工夫を継続していくことが求められています。



SDGS理解への取り組み I エコメッセちばの場合

開催目的	持続可能な社会を目指し、子どもから大人まで、環境に関心を持ち多くの人が環境保全に向けて行動する場の提供。 さらに協働することが必要であることを多くの人に伝える場。
開催	1996年 第1回エコメッセちば テーマ:みんなでつくるエコメッセ ↓ 2018年 第23回エコメッセ2018inちば テーマ:ちばから発信 SDGs 2019年 第24回エコメッセ2019inちば テーマ:みんなで取り組むSDGs
組織	実行委員会 (市民・大学・企業・行政)
来場者 出展団体 会場	来場者 :約1万人 出展団体:約100団体(市民団体:企業:行政=4:35:25) 会場 :幕張メッセ国際会議場
課題	多様な主体の参加 テーマ決め 後継者 財政

エコメッセ会場風景

(エコメッセ2018INちば)



SDGS理解への取り組みⅡ

SDGsを達成するためのESD地域リーダー担い手育成事業を始めた理由

現状課題1

地域などでの環境活動の基礎を築いてきた千葉県主催の環境保全活動指導者養成講座(エコマインド養成講座)を約20年間開催されたが、同様な形態では行われていない。

現状課題2

環境団体の高齢化が進み、活動自体の継続が危ぶまれている

現状課題3

環境問題解決のために、持続可能な視点でのプログラムも不十分

問題点

- ◎SDGs達成のためのESDの視点を持った学習・活動プログラムがない
- ◎地域でのリーダー不足
- ◎SDGs ESDを知らない

SDGS理解への取り組みⅡ

SDGsを達成するためのESD地域リーダー担い手育成事業内容

概要	3年間の期間を1サイクルとして活動する計画	・持続可能な開発のための教育(ESD)の視点を持った担い手育成事業を卒業した人は、地域のコアリーダーとして活動して行く。 ・地域コアリーダーが活動を展開するために、多様な主体とのネットワークでSDGsを進めるESDプラットフォームづくりを目指す。
1年目	・専門家・団体・企業・行政・学校で既に活動しているリーダーが集まりSDGsを達成するためにESDの視点を入れたモデルプログラムを作成 ・プラットフォームづくりの必要性など検討(参加者:市民団体・学校・専門家・企業・行政)	
2年目	・千葉県北部地域で1年目プログラムを活用して人材育成事業を実施。 ・1年目で育成したリーダーは、育成事業のサポーターとして関わる ・ESDプラットフォームをつくるための要素の検討(参加者:市民団体・学校・専門家・企業・行政) ・SDGsフォーラムの開催	
3年目	・南部地域で事業展開、北部地域の卒業生が北部で事業展開しながら、南部地域にもフィードバックして事業のPDCAを回す・千葉県北部地域で1年目プログラムを活用して人材育成事業を実施。 ・ESDプラットフォームづくり(参加者:市民団体・学校・専門家・企業・行政) ・SDGsフォーラムの開催	

SDGS理解への取り組みⅡ

3年間の事業を通しての期待する効果

- ・地域コアリーダーが県内に50人育成され、地域で活動を広げていく
- ・育成されたリーダーが今後活動を継続して行くための多様な主体とのプラットフォームが形成される⇒ESD・SDGsへの理解が進む

4年目以降

事業の実施と継続のため地域コアリーダーのスキルアップを図りながら、多様な主体と連携、協働し、事業を展開する⇒SDGs達成へ向かう



「SDGs達成のためのESD事業スタートアップ」開催



ESDの視点を入れたプログラムづくり

【課題】

環境問題を解決していくためには、SDGsを達成のためのESDの視点を持った学習及び活動プログラムと地域でのリーダー不足が課題です。

【目標】

- ・SDGs達成のためにESD地域リーダーを育成して、活動の場を設けます
- ・多様な主体とのネットワークでSDGsを進めるプラットフォームを作り、協働事業などを提案

【活動内容と成果】

- ・ESD地域リーダー育成数は13人となりました。
- ・ESDの視点を入れた「ESDプログラム」ガイドブック(モデルプログラム)は、15プログラム作成しました。
- ・モデルプログラム作成者(ESD地域リーダー)は、プログラムを今後地域で実践し、フィードバックしていきます。
- ・2018年に参加されたESD地域リーダーは、次年度以降の育成事業のサポーターとなって育成事業の支援をします。
- ・プラットフォーム構築の必要性について、各立場からの意見を出し合い、多様な主体が参加する実行性のあるプラットフォームづくりの構築を目指します。

【今後の展望】

- ・ESD地域リーダー人材育成事業の周知について、県内各地の情報収集などと、現地に行き理解者及び協力者の輪を広げる活動を展開します。
- ・SDGsを周知する場(フォーラム)を開催し、理解者を増やします。

お知らせ

ちばSDGSフォーラム ～私に取り組むSDGS～

令和元年 10月20日（日） 3:30～15:30

会場：幕張メッセ国際会議場202室（エコメッセ 2019 in ちば 会場内）

募集人数：30名 参加費：無料

◆ **講演 「SDGsを自分ごと化するための工夫」**

石井 雅章 氏

（特非）環境パートナーシップちば

/ 神田外語大学言語メディア教育センター長准教授

◆ **パネルディスカッション 「私に取り組むSDGs」**

「途上国での環境教育」

木村 由佳 氏

（元青年海外協力隊／ラオス：環境教育）

「ベイタウン・SDGs・クリエイションの活動」

遠藤 美映 氏

（合同会社 HANA 代表社員兼 BSC 実行委員会理事）

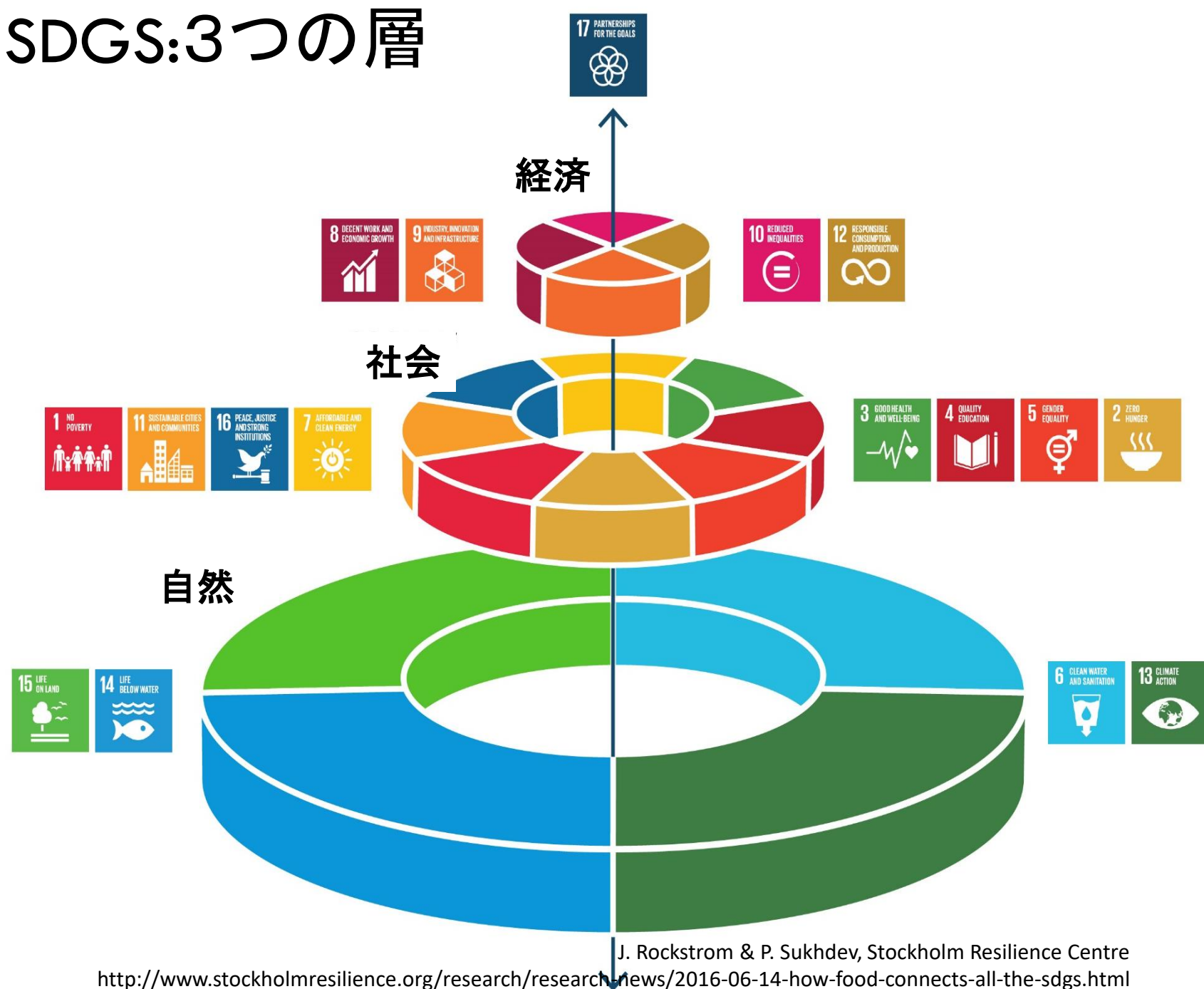
「いすみ市での生物多様性の主流化とSDGs」

手塚 幸夫 氏

（房総野生生物研究所）

コーディネーター 石井 雅章 氏

SDGS:3つの層



J. Rockstrom & P. Sukhdev, Stockholm Resilience Centre

<http://www.stockholmresilience.org/research/research-news/2016-06-14-how-food-connects-all-the-sdgs.html>

SDGS達成へ向けて



17 パートナーシップで
目標を達成しよう

